

各関係機関長 様

高知県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予察特殊報第1号を送付します。

平成22年度病害虫発生予察特殊報第1号

1. 害虫名 **ミツユビナミハダニ**(*Tetranychus evansi* Baker & Pritchard)

2. 発生作物 ナス(促成栽培)

3. 発生経過

平成22年9月下旬、高知県中央部の施設ナスほ場において、下位葉にナミハダニ赤色型に酷似した淡橙色のハダニ類による激しい食害が確認された。茨城大学後藤教授に同定を依頼したところ、平成22年10月に、本県では初発生となるミツユビナミハダニと同定された。

4. 分布

本種は、国内では平成13年に大阪府の雑草イヌホオズキで発生が初めて確認されて以来、京都府、兵庫県、東京都、鹿児島県のナス科雑草及び無農薬栽培のミニトマト、ナスで発生が確認されている。

5. 生態的特徴など

体色は、雌成虫はくすんだ淡橙色、雄成虫は白～淡橙色。大きさはカンザワハダニ、ナミハダニとほぼ同じである(写真1)。本種は、休眠性は示さず、ナミハダニ属の中でも非常に高い増殖能力を持つ。植物の葉裏に寄生し、寄生部位を著しく白化させ(写真2、3)、高密度になると植物が枯死する場合もある。

6. 寄生植物

本種の発生が確認されている植物は、ミニトマト、ナス、ワルナスビ、イヌホオズキなどであり、ナス科植物以外への寄生は確認されていない。

7. 防除対策

・ほ場周辺のナス科雑草(イヌホオズキやワルナスビなど)は、本種の発生源となる可能性があるため除草に努める。

・ハダニ類の防除に利用されている捕食性天敵のミヤコカブリダニ及びチリカブリダニは本種に対する防除効果が低いことが知られており、天敵による防除対策は確立されていない。

・ハダニ類に登録のある殺ダニ剤に対する薬剤感受性は、成虫・幼虫・卵のいずれも高く、他のハダニ類との同時防除が可能である。また、カブリダニ類・捕食性カメムシ類への影響の少ない殺ダニ剤(オサダン水和剤など)の利用により、天敵利用ほ場でも本種の密度抑制は可能と考えられる。



[写真1: ミツユビナミハダニ雌成虫]



[写真2: ミツユビナミハダニ寄生状況]



写真3: 被害葉]